「臨床能力向上のためのコアエデュケーション
～情報ネットワークの構築～」

11 月 23 日（土）　13：10～13：40
会場：第 1 会場（4 階クラインホール）

星城大学リハビリテーション学院
三宅　わか子

「臨床能力向上のためのコアエデュケーション
～情報ネットワークの構築～」

【講師略歴】

氏　　名：三宅　わか子
所　　属：星城大学リハビリテーション学院
専門分野：教育管理
活 動 歴：2015～日本理学療法教育学会 常任運営幹事
2017～コアカリキュラム委員会 委員
理学療法コミュニケーション論　医歯薬出版（編著,2018）

【講演要旨】

（公社）日本理学療法士協会は、理学療法士が集う唯一の学術および職能団体であり、基本理念に理学療法士としてすべてのひとの健康と幸福を実現することを置き、理学療法士の地位向上を通じて国民の皆様の医療・保健・福祉の向上を目指し、「学術」、「教育・研修」、「調査研究」、「広報」活動を展開しています。平成 25 年度より日本理学療法士協会内に、「日本理学療法士学会」ならびにその下部機関となる「分科学会」、「部門」が設立され、より専門領域に特化した活動が行える環境が整いました。そしてその役割は「各分科学会・部門の精力的な活動」と「学会による組織的な広報活動」、理学療法の有効性を社会に発信することにあります。

現代の日本社会では地域包括ケアシステムの構築が推し進められ、理学療法士の活動範囲は広がり、専門性は細分化しています。いまや高齢者、障がい児・者のみならず、広く国民のさまざまな予防や治療に携わることが求められています。

2018 年秋には養成課程の指定規則改定により、理学療法士に求められる臨床能力が明確にされ、卒前教育と卒後教育の切れ目のない理学療法教育の再構築によるコアとなる教育課程の確立は、各分科学会・部門の精力的な活動の一つに値します。私は理学療法知識、理学療法技術、そして資質のコアは理学療法士の人間性教育にあると考えています。どのような能力が具体的に必要であるのか？教育の方法と効果判定に至るまで、理学療法士一人ひとりが真剣に受け止める意識の共有が必要であると言えます。

この度、12 学会と 10 部門では臨床能力向上のための基礎および実践に求められる理学療法教育について協議・検討するための情報交換の場として、「教育情報ネットワークの構築」に着手しました。理学療法士育成についてのさまざまな情報を共有し、養成校教育と臨床実習、協会が推し進める生涯学習に対し、専門領域である分科学会・部門がいかに関わるのかについて情報交換をしています。本学術大会の 2 日目には教育情報ネットワークの活用をテーマに、4 学会からお話を伺う機会を設けました。生涯学習制度と学会・部門活動との連動に至るまで理学療法教育について語り合い、教育体制の整備に向けた情報を発信したいと思います。